

# 会 議 録

[所管課 水谷公民館]

会議の名称	平成27年度第1回水谷地区公民館運営審議会会議録
開催日時	平成27年12月9日(水) 午後7時～9時15分
開催場所	水谷公民館 会議室
出席者	是永 国彦委員 山本百合子委員 関根 健一委員 冨塚 一資館長 大日方清美主査 高見 淳也主査 南部 英司主任
会議次第	<p>【報告・連絡事項】</p> <p>(1) 学級講座等開催事業等に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館企画運営委員会の設置</li> <li>・まちづくり協議会：水谷小区防災訓練</li> <li>・東日本大震災・富士見市応援プロジェクト『東松島まつり』</li> <li>・親の学習講座</li> <li>・サロン事業（介護者・一人暮らし・ピースなど）</li> <li>・その他</li> </ul> <p>(2) 施設維持管理事業に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給排水及び空調設備工事</li> <li>・公共施設予約システム</li> </ul> <p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 公民館カフェ構想（若者の公民館利用含む）</li> <li>② 公民館企画運営委員会について</li> <li>③ 家庭教育：親の学習講座</li> <li>④ サロン型公民館の展開</li> </ol>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館企画運営委員会の設置 資料1</li> <li>・まちづくり協議会：水谷小区防災訓練 資料2</li> <li>・東日本大震災・富士見市応援プロジェクト『東松島夏まつり』 資料3</li> <li>・親の学習講座 資料4</li> <li>・サロン事業（介護者・一人暮らし・ピースなど） 資料5</li> </ul>

## 会 議 内 容

\*あいさつ（館長、水谷地区公民館運営審議会委員代表）

### 【報告・連絡事項】

#### （１）学級講座等開催事業等に関して

- ・公民館企画運営委員会の設置
- ・まちづくり協議会：水谷小区防災訓練
- ・東日本大震災・富士見市応援プロジェクト『東松島まつり』
- ・親の学習講座
- ・サロン事業（介護者・一人暮らし・ピースなど）
- ・その他

⇒事務局から資料１～５に基づき報告・説明

#### （２）施設維持管理事業に関して

- ・給排水及び空調設備工事
- ・公共施設予約システム

⇒事務局から報告・説明

#### （１）今後の水谷公民館の事業展開について

##### ① 公民館カフェ構想（若者の公民館利用含む）

⇒事務局から資料６に基づき説明

職員：喫茶コーナーの設置については、運営組織や施設面をどうするのかということをも具体的にしていかなないと展開することは難しいと捉える。

委員：公民館カフェについては、公民館をより「気軽に身近に立ち寄れる交流の場」にできないかという考えから出てきたものであり、その取り組みの一つとしてイメージしたものである。

委員：例えばコーヒーの淹れ方講座などを開催して、その受講者がイベントで模擬店を出店するなど実践の場を設定しながら徐々に展開してみてもどうか。

職員：この話は、いかに若い人や新たにこの地域住んでいる方などが公民館に立ち寄ってもらおうかという議論からでてきたものである。

委員：公民館の入口周辺やロビーなどもっと気軽に立ちよれるような雰囲気づくりが必要では。

委員：他の施設では、音楽鑑賞会や映画鑑賞会などで、若い人が来ている取組みもある。

委員：公民館というと、各種講座や学級などをやっているイメージ。若い人たちはどのようなイメージをもっているのだろうか。

委員：学校を通して子ども向けの事業のチラシが届き、イベントなどを行ったりしているというイメージがある。

委員：情報をどう伝えているか。公民館だよりだけでは十分に伝わらない。特に若者にSNSは必要である。

職員：公民館に高校生が「ロビーでテスト勉強をしていいですか？」とか、「麻雀（賭事ではない）をやらせてもらいたい」などという事例がある。麻雀については、友だち同士でサークルを作って、登録すれば部屋を利用することも可能だと話を

すると、高校生はとても喜んだ様子で耳を傾けてくれた。(現在のところ、団体登録の手続きはされていないが。)このようなことから、若者の居場所というのは求められていることだと捉える。

委員：若者が集うとき、例えば呑み屋と公民館を利用使う時の違いは、公民館はセルフサービスで料金も安く利用できる。朝霞市の新たなプレイパークが設置されているが、ここでは、最低限のルールを守れば利用できるという仕組みになっている。公民館もこれはダメということ押し付けるのではなく、こうすればできるとをもっと伝えていく必要があるのでは。

## ② 公民館企画運営委員会について

職員：今年新たに設立したが、今後内規の作成を行っていきたい。水谷文化祭の改革などの中心的を担っていくようになればと考えている。企画委員会のイメージとして「夢を語り合い形にしてく」ことを目指したい。

### \*その他

職員：次回会議では、今回協議できなかった家庭教育：親の学習講座およびサロン型公民館について議論したい。日程は1月下旬から2月初旬に設定したい。

### \*閉会